□最終 ■当初

	作成年月日	2	0	2	2	年	0	8	月	1	6	
法人名		株	式会	₹社	L-N	1otic	on					
代表者職名前	ſ	代表	取紛	稅	大	:賀:	悠平	<u>.</u>				
担当者名						連	絡:	先				

-	1+	=	\pm	

事業種別	多機能型事業所	事業所名 児童発達支援・放課後等ディサー 開設(変更) 2023年1月1	日

		計画の概要					本語	十画	書(こ記	載/	<u>が必</u>	要7	な項	[目			
		計画の似安		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	■ 新規事業所の開設	□ 共生型サービス		0	0	0	0						0	0	0	0	0	0
	□ 事業の追加	□ 共生型サービス以外	□ 新築予定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			☐ 賃借·自己所有	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1+		■ 多機能型サービス	□ 新築予定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
協議			■ 賃借·自己所有	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		1 1	□ 現在地	Ō	O	O	Ō	Ō	0	0	Ō	Ō	Ō	O	Ō	Ō	0	0
の	□ 定員の変更	□ 就労継続支援A型	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
種類		□ 共同生活住居の追加		0	0	0	0		0			0	0	0	0	0	0	0
块		□ 上記以外		0	0	0	0		0			0	0	0	0	0	0	0
	□ 大幅な事業内容の変	更		0	0	0		0	0	0	0	0			0	0	0	0
	□ 事業所の移転		□ 新築予定	0	0	0	0						0	0	0		0	
			☐ 賃借·自己所有	0	0	0	0						0	0	0		0	
	□ 建物の構造・設備の変更	□ 施設整備を伴う	-	Ō	0	0	Ō							0	Ō			
		□ 施設整備を伴わない		0	0	0	0							0	0			

2	事業	宝施	上係	ふ	動検

뭬	紙1	参	眖

3 提供サービス

3 提供リーレス						
	① 児童発達支援	割合	5	0 9	6	提供日
種別	② 放課後等デイサービス	割合	5	0 9	6 ■	
	3	割合		9	6 月	火水木金土日
理念	運動と遊びからココロとカラダを育み、子ども達の笑顔と自	1己肯定感を増やす	t.			
目標	子ども達の発育発達を運動から様々な刺激を与え、心身の知ってもらい、且つ自己肯定感を高め自発的になんでも取目指す。					
同種のサービス						

4 施設の概要【平面図は裏面のとおり】

 يا ڪارا	X UNIV X		<u> </u>												
土	所在地	福山市南南	或王町5丁目	17-36					用途区均	į	近	隣商業地	域		意見
地	所有者								抵当権		あり				〇本件は、都市計画法第4条第
	名称	南蔵王店舗	甫												12項に規定する「開発行為」に 該当しないため、同法第29条第
7-1	所有者								抵当権		あり				1項の開発許可は不要です。
建物	用途	貸倉庫							構造			鉄骨造			〇今回計画の児童発達支援·放 課後等デイサービスの建築基
初	階層	1階(ロフ	ト付) 地	上 1 3	皆	地下		階	建築年			1992		年	準法上の用途は「児童福祉施設
	建築面積	1 3	谐168.55mឺ	ロフト	-54.92n	nً		m²	延面積		2	223.47		m²	等」に該当しますが、用途を変
		種別	児童発達す	え援											更する床面積が200㎡以下のため、建築基準法上の手続きは不
	1	手続	新規		使用す	る階	1	階	専有面積	į			168.55	m²	要です。
事		収容人員	1 0人	内訳	職員	5	人	利	用者	5	人				なお, 手続きが不要な場合で あっても, 建築士等に相談し, 建
業		種別	放課後等う	デイサー	ビス										築基準法に適合する計画とする
の	2	手続	新規		使用す	る階	1	階	専有面積	Ī			168.55	m	こと。 ・〇防火対象物使用開始届出書
概		収容人員	1 0人	内訳	職員	5	人	利	用者	5	人				を提出すること。
要		種別													消火器,自動火災報知設備,誘
	3	手続			使用す	る階		階	専有面積	Ī				m	導灯を設置すること。。 防火管理者選任届出書及び消
		収容人員	人	内訳	職員		人	利	用者		人				防計画作成届出書を提出するこ
	申請種別	□ 新築	□ 増築	□ 用途	主変更	□移	転		その他						と。 カーテン及びじゅうたん等を使
内	ᄆᄀᆝᅘᄭᄉ	/十四古光/	フ わご 土 お 5	売) では!	四十 7 1	マロの	+ W		DEL サロハ の	(合)中	≁ 7 ⊢ ⅓H	- <i>t</i> /= 1.			用する場合は、防炎物品を使用
容		は別事業() 支援・放課後), 1	陌部分(0.	/	と以来	それい			すること。
	九里光廷.	义孩 放	女守ノイリー	一しへ争	**で11	いより	0								

6 大田邢司先

5 主要取引先								
上段:取引先 下段:所在地	割合	ŧ	掛取引	I	回収・ラ	を払の象	意見	
	9	%	ģ	%	日〆		日回収	
	9	%	ģ	%	日义		日回収	
	9	%	ģ	%	日〆		日回収	

6	1 11	뿊	吕
n	411	垂	_

6 従業員						
職種	雇用形態	名前	年齢	平均	月給	意見
管理者 兼 児童指導員	■常		2 8	2 8	万円	
児童発達支援管理者	■常		5 6	3 0	万円	
保育士	■常□非		2 4	2 5	万円	
理学療法士	■常□非		2 5	2 5	万円	
児童指導員	『常□非		5 7	2 0	万円	•専門的職員(理学療法士)
	口 常 口 非				万円	は年齢的に若いと思われる
	口 常 口 非				万円	が、障がい児支援の実務経
	口 常 口 非				万円	験を有する人か。経験がな
	口 常 口 非				万円	い場合は、どのように補って
	口 常 口 非				万円	いくか。
	口常口非				万円	
	口常口非				万円	
		月	給計 1	2 8	万円	

| 人件費 | 末 | 日 〆 | 1 5 | 日 支払 ボーナス | 0 6 | 月 | 1 2 | 月

受	理		月	日
閗		市	建築指導課	

様式第2号-1

^		7,1	Н
関係者		市 建築指導課 消防局予防課 開発指導課	
日への意		福山市障がい福祉 サービス等の指定 係る懇話会	
見			
聴			
取			
ŧ			
□	答	月	日

7	借	λ	余	ത	北	35
,	IH.	_	. 11/	~	-1/	IJ

, 10 / 12 4/ 1//00									
金融機関	理由		借	入残高	<u>. </u>	年間	返済客	<u>Į</u>	意見
	設備資金•運転資金	1	4	0	0 万円	1 2	. 7	万円	
					万円			万円	
					万円			万円	

8 必要な資金と調達方法

	2.女子女生に耐足力は									
	必要な資金	金額	_	調達方法			金額			意見
≞л	土地		万円	補助金					万円	
備	建物	7 5 0	万円	自己資金		2	0	0	万円	
酒資		1 5 0	万円	借入金	1	3	0	0	万円	# 3 A B # + 4 000 T 1. 3
全金	車両		万円							・借入金の額を1,300万から 1,400万に修正すること。
317	その他		万円							1,400711211311 9 50220
運	転資金	7 0 0	万円							
	合計	1 6 0 0	万円	合計	1	6	0	0	万円	

9 事業の見通し

9	争耒の兄进し																					
				1月	<u>目</u>				2月	目				3月	1	=			1年	後	-	意見
	利用者見込 A				6	人			1	1	人			1	6	人			2	9	人	
月	平均利用額 ※1 (1人当たり)			9	7	千円			9	7	千円			9	7	千円			9	7	千円	
収	給付費 ※2					千円					千円		5	6	1	千円	2	9	3	0	千円	
入						千円					千円					千円					千円]
	収入計 ①					千円					千円					千円					千円]
	人件費(賞与引当込み)	1	3	1	0	千円	1	3	1	0	千円	1	3	1	0	千円	1	3	1	0	千円	
	旅費•交通費			5	4	千円			5	4	千円			5	4	千円			5	4	千円	
支			2	2	0	千円		2	2	0	千円		2	2	0	千円		2	2	0	千円	
出	通信費			2	0	千円			2	0	千円			2	0	千円			2	0	千円	・収支計画内に利益見
	諸経費 ※4		4	2	8	千円		4	2	8	千円		4	2	8	千円		4	2	8	千円	込み欄があるが、達成
	支払元金利息				5	千円				5	千円				5	千円				5	千円	率を意識するのである なら、運転資金は余裕を
	支出計②	2	0	3	7	千円	2	0	3	7	千円	2	0	3	7	千円	2	0	3	7	千円	持ったほうが良いと思わ
	収支 ①-②	-2	0	3	7	千円	-2	0	3	7	千円	-1	4	7	6	千円		8	9	3	千円	れる。
生産	収入 B 売上高 ※3					千円					千円					千円					千円	
活	支出 C					千円					千円					千円					千円	
動	利用者賃金 必要経費					千円					千円					千円					千円	
	賃確保状況(A型) B-C)/25)/8)/A					巴					巴					円					巴	

※1 月平均利用額(1人当たり)の積算根拠 基本報酬(サービス費)+全ての加算について記載すること

- 児童発達支援 (基本報酬885+児童支援員加算187×専門的支援加算187×10) 処遇改善加算(1)8.1% = 13.609円/日 - 放課後等デイサービス (平日:基本報酬604+児童支援加算187×専門的支援加算187×10) 処遇改善加算(1)8.4% = 10.601円/日 (休日:基本報酬721+同様) = 11.869円/日

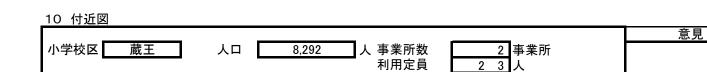
※2 給付費は、サービス提供月の翌々月に振り込まれるので留意すること(例:4月サービス提供→5月請求→6月振込) ※3 主な受注作業取引先(生産活動を行う場合に記入)

	上段:受注先 下段:所在地	1月当たりの	受注額	契約	書の有	無	回収・支払いの条件
			万円	あり		なし	
V. 1	・ 主た車業所内と帝ワ(と帝活動な	行う担合に 訂7	()				

※3 主な事業所内生産品(生産活動を行う場合に記入)

生産品	1時間単価			算式	_	1月当たりの生	上産額	
	円	×	H ×	日 ×	人 =		万円	
	円	×	H ×	日×	人 =		万円	

※4 諸経費:消耗品,光熱水費,車両管理費,研修費,宣伝広告費,租税公課,社会保険料,レンタル料等

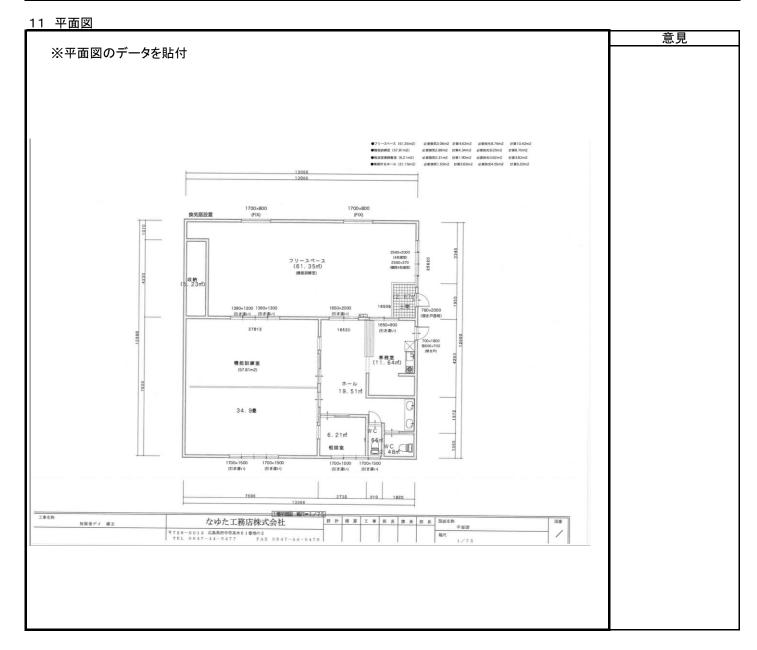


凡例 ○ ··· 事業所 × ··· 同種の事業所 △ ··· 一次避難先 □ ··· 二次避難先

小学校生徒数(支援学級) 近隣含む

蔵王177(14)緑丘679(44)春日398(15)日吉台296(32)深津471(20)伊勢丘475(47)千田605(54)

* 令和4年5月時点



_12 事業計画	
【利用者定員】 発達児童支援 5名/日 放課後等デイサービス 5名/日	意見
<u>合計10名/日</u>	
【営業時間】 9:30~18:30 【サービス提供時間】 児童発達支援 10:00~13:00(3H)	
放課後等デイサービス 15:00~18:00(3H)	
<u>合計6時間/日</u>	
【定休日】 日曜日・祝日・GW・お盆・年末年始 【送迎】 なし	
【対象年齢】 放課後等デイサービス 6歳~18歳	
発達児童支援 3歳~7歳(未就学児)	
【駐車場】 8台分あり(従業員と共用)	
13 利用者処遇	
	意見 ・支援時間は1コマ60分と
	なっているが、中には気持ち
	の切り替えが難しい児童もおり、十分な支援をするために
	は, ゆとりを持った時間設定 をしたらよいのではないか。
	た、児童の気持ちの切り替えのためには、十分な声掛ける
別紙2参照	ども行ったらよいと思う。 ・運動や遊びの際、事故等な
	起こらないようにどのような配
	慮を行っていくか。 ・支援の対象となる児童はど
	のように決めていくのか。 ・支援の個別・集団の別はど
	のような基準で決めていくの か。
	
14 防災計画 【浸水想定区域】 O. 5m以上3. 0m未満	意見
【津波浸水想定区域(浸水深)】 1~2m未満	10.75
【土砂災害(特別)警戒区域】 該当なし 【避難場所】 一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6.0m	
二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m	
三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m 【避難方法】 児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う	
【避難訓練】 年2回実施 【防災備品】 防災セットの常時完備	
【防災備品】 防災セットの常時完備 【消火設備】 消火器完備	
【AED除細動器】常時完備	
【AED講習】 年2回実施(日本赤十字社または消防局)	
<u>15 一日の流れ</u> 	意見
]
	_
	-
	
	-
分 分	コ
┣	¬

時 分~ 時 分

_	عللد			_
耍		=+	imi	æ
-	-	= 1	1001	_
	\sim	ні	_	

■最終

口当初

	作成年月日	2	0	2	2	年	0	8	月	1	6	日
法人名		株	式会	≷社	L-N	1otic	on					
代表者職名前	ŕ	弋表	取約	稅	大	賀急	悠 平	<u>.</u>				
担当者名						連	絡:	先				

1 協議事項

事業種別	多機能型事業所	事業所名 児童発達支援・放課後等デイサー ビス ホップスアカデミー	開設(変更) 2023年1月1日

			 計画の概要					本語	十画	書に	こ記	載だ	が必	要	よ項	目			
			計画の概安		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	■ 新規事業所の開設		共生型サービス		0	0	0	0						0	0	0	0	0	0
	□ 事業の追加		共生型サービス以外	□ 新築予定	0	0	0	О	О	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				☐ 賃借·自己所有	0	0	0	О	О	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
協			■ 多機能型サービス	□ 新築予定	0	0	0	О	О	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
議				■【 賃借·自己所有	0	0	0	О	О	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
の				□ 現在地	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
種	□ 定員の変更	ı	就労継続支援A型	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
類			共同生活住居の追加		0	0	0	0		0			0	0	0	0	0	0	0
7,5			上記以外		0	0	0	0		0			0	0	0	0	0	0	0
	□ 大幅な事業内容の変	更			0	0	0		0	0	0	0	0			0	0	0	0
	口 事業所の移転			□ 新築予定	0	0	0	0						0	0	0		0	
				☐ 賃借·自己所有	0	0	0	0						0	0	0		0	
	□ 建物の構造・設備の変更		施設整備を伴う		0	0	0	0							0	0			
			施設整備を伴わない	•	0	0	0	О							О	0			

2 事業実施に係る動機

別紙1参照

3 提供サービス

	① 児童発達支援	割合	5	0 9	6	提供日
種別	② 放課後等デイサービス	割合	5	0 9	6 ■	
	3	割合		Ģ	6 月	火水木金土日
理念	運動と遊びからココロとカラダを育み、子ども達の笑顔と目	自己肯定感を増や	す。			
目標	子ども達の発育発達を運動から様々な刺激を与え、心身を知ってもらい、且つ自己肯定感を高め自発的になんでも に目指す。					
同種のサービス						

4 施設の概要【亚面図け車面のとおり】

4	他部	との概要[・	<u> </u>	
	Ŧ	所在地	福山市南蔵王町5丁目17-36 用途区域 近隣商業地域	主な修正点
	地	所有者		O手続きが不要な場合で
		名称	南蔵王店舗	あっても、建築士等に相談 し、建築基準法に適合する
	z ±	所有者	抵当権 🔲 あり	け画とします。
	建物	用途	貸倉庫 横造 鉄骨造 (〇防火対象物使用開始届出
	190	階層		書作成の上、提出します。
		建築面積		〇消火器, 自動火災報知設 備, 誘導灯をは12月20日(予
			種別 ┃児童発達支援	定)までに設置します。
		1		〇防火管理者選任届出書及
3	事			び消防計画作成届出書を作 成の上、提出します。
1	業			スのエ、徒品しより。 Oカーテン及びじゅうたん等
	の	2	手続 新規 使用する階 1 階 専有面積 168.55 ㎡ 2	を使用する場合は、防炎物
ł	既		収容人員 1 0 人 内訳 職員 5 人 利用者 5 人	品を使用します。
-	要		種別	
		3	手続 使用する階 階 専有面積 ㎡	
			収容人員 人 内訳 職員 人 利用者 人	
		申請種別	□ 新築 □ 増築 □ 用途変更 □ 移転 ■ その他	
ſ	勺	ロコト並ひ	は使用をしません。	
1	容		はほんでしている。	
		י בים ביי	カードで必然でロッル主元年入版 IMM 区サノコノ 「Cハデ木でロッチ)。	

5 主要取引先

上段:取引先 下段:所在地	割合	ì	掛取	引	回収・3	支払の約	条件	主な修正点
		%		%	日〆		日回収	
		%		%	日〆		日回収	
		%		%	日〆		日回収	

_6 促業員	
職種 雇用形態 名前 年齢 月給	意見
	理学療法士の年齢に入力さ
	があったため修正しており す。 障がい児の運動療育
	9。 障かい兄の運動猿自 設などで従事経験ありで
理学療法士 ■ 常 □ 非 2 5 3 0 万円 する	
児童指導員 □ 常 □ 非 5 7 2 0 万円	
□常□非	
月給計 1 2 8 万円	
人件費 末 日 〆 1 5 日 支払 ボーナス 0 6 月 1 2 月	

様式第2号-2 受付印
X Diff.

7 借入金の状況

金融機関	理由	借入残	高	年間返済	額	意見
	設備資金•運転資金	1 4 0 0	万円	1 2 7	万円	
			万円		万円	
			万円		万円	

8 必要な資金と調達方法

	必女の兵业に附近力は							
	必要な資金	金額		調達方法	金	額		主な修正点
≞л	土地		万円	補助金			万円	〇 借入金の数値を修正しま
設備	建物	7 5 0	万円	自己資金	2 0	0	万円	した。
資	設備	1 5 0	万円	借入金	1 4 0	0	万円	
金	車両		万円					
717	その他		万円					
運	転資金	7 0 0	万円					
	合計	1 6 0 0	万円	合計	1 6 0	0	万円	

9 事業の見通し

9	争耒の見通し								
		1月目	2月目		3月目	_	1年後		主な修正点
	利用者見込 A	6 .	人 1 1	人	1 6	人	2 9	人	〇達成率の意識し営業活動
月	平均利用額 ※1 (1人当たり)	9 7 1	-円 9 7	千円	9 7	千円	9 7	千円	に注力していきます。運転資 金につきましても見直しの上、 弊社別事業からの補填または
収	給付費 ※2	Ŧ	一円	千円	5 6 1	千円	2 9 3 0	千円	追加融資の検討して運営を行
入	その他	Ŧ	一円	千円		千円		千円	なっていきます。
	収入計 ①	Ŧ	一円	千円		千円		千円	
	人件費(賞与引当込み)	1 3 1 0 Ŧ	一円 1 3 1 0	千円	1 3 1 0	千円	1 3 1 0	千円	
	旅費·交通費		-円 5 4	千円	5 4	千円	5 4	千円	
	賃借料	2 2 0 T	-円 2 2 0	千円	2 2 0	千円	2 2 0	千円	
出		2 0 T	- 円 2 0	千円	2 0	千円	2 0	千円	
	諸経費 ※4	4 2 8 T	一円 4 2 8	千円	4 2 8	千円	4 2 8	千円	
	支払元金利息	5 T	- 円 5	千円	5	千円	5	千円	
	支出計②	2 0 3 7 T	一円 2 0 3 7	千円	2 0 3 7	千円	2 0 3 7	千円	
	収支 ①-②	-2 0 3 7 T	-円 -2 0 3 7	千円	-1 4 7 6	千円	8 9 3	千円	
生	収入 B 売上高 ※3	Ŧ	-円	千円		千円		千円	
生産活	支出 C		-円	千円		千円		千円	
動	利用者賃金 必要経費	Ŧ	-m	千円		千円		千円	
	賃確保状況(A型) (B-C)/25)/8)/A		円	円		円		円	

※1 月平均利用額(1人当たり)の積算根拠

基本報酬(サービス費)+全ての加算について記載すること

・児童発達支援 (基本報酬885+児童支援員加算187×専門的支援加算187×10)処遇改善加算(1)8.1% = 13,609円/日
・放課後等デイサービス (平日:基本報酬604+児童支援加算187×専門的支援加算187×10)処遇改善加算(1)8.4% = 10,601円/日 (休日:基本報酬721+同様) = 11,869円/日
※2 給付費は、サービス提供月の翌々月に振り込まれるので留意すること(例:4月サービス提供→5月請求→6月振込)
※3 主な受注作業の30年

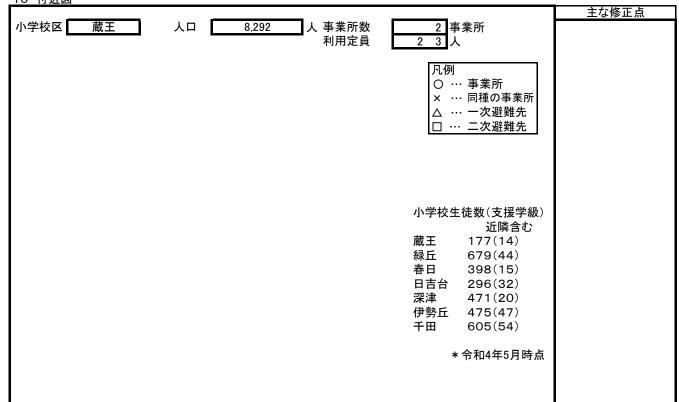
上段:受注先 下段:所在地	1月当たりの受注額	契約書の有無	回収・支払いの条件
	万円	ロ あり ロ なし	

※3 主な事業所内生産品(生産活動を行う場合に記入)

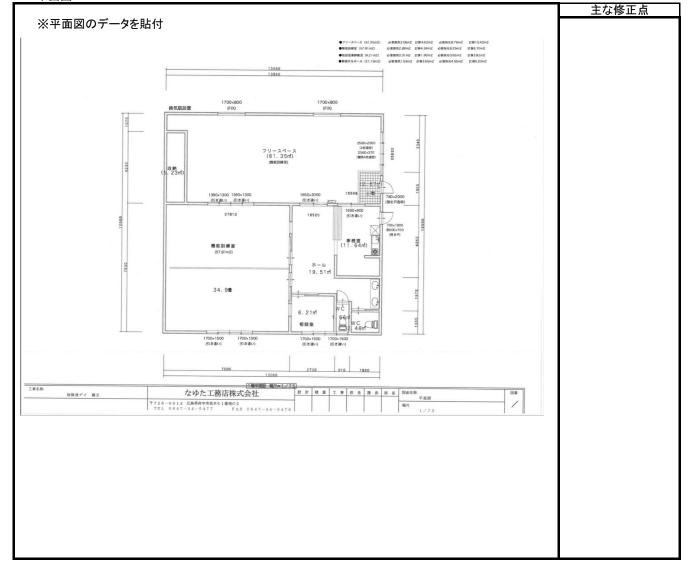
~ _	工る事末川門工座吅(工座店		- 06 /	<u> </u>					
	生産品	1時間単価			_	算式	_	1月当たりの	生産額
		円	×		H ×	日×	人 =		万円
Γ		円	×		Η×	日×	人 =		万円

※4 諸経費: 消耗品, 光熱水費, 車両管理費, 研修費, 宣伝広告費, 租税公課, 社会保険料, レンタル料等

10 付近図



11 平面図



12 事業計画

利用者定員]発達児童支援 5名/日	主な修正点
放課後等デイサービス 5名/日	
<u>合計10名/日</u> 「営業時間】9∶30~18∶30	
日末時間 3:00 10:00 10:00	
放課後等デイサービス 15:00~18:00(3H)	
<u>合計6時間/日</u> 定休日】 日曜日・祝日・GW・お盆・年末年始	
送迎】 なし	
対象年齢 放課後等デイサービス 6歳~18歳	
発達児童支援 3歳~7歳(未就学児)	
駐車場】8台分あり(従業員と共用)	
3 利用者処遇	<i>→+</i> √/⁄///////
	主な修正点 〇60分の中では1日に多くの療育
	プログラムを組み込まず児童の ペースで行えるよう一つ一つのプ
	ログラムを丁寧に行なってまいり ます。また児童を焦らさないよう
	声がけも気をつけて行なっていき
	ます。 〇床は転倒や膝等 への負担へ備えクッション性の高
別紙2参照	いマットを使用します。また事業 所内、ガラスへは飛散防止シート
11/24- > M	を貼り怪我事故予防に努めま す。
	〇知的・発達障害を対象として行 います。
	○基本は個別を主体とします。で すが保護者の意向や、療育内で
	必要に感じ場合は保護者への相
	談の上集団への提案を行ってま いります。
14 防災計画	
	主な修正点
浸水想定区域】 0. 5m以上3. 0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】 1~2m未満	主な修正点
浸水想定区域】 O. 5m以上3. 0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】 1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし	主な修正点
浸水想定区域】 O. 5m以上3. 0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】 1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】 該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6. 0m	主な修正点
浸水想定区域】 0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】 1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m	主な修正点
浸水想定区域】 O. 5m以上3. 0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】 1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】 該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6. 0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7. 5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12. 9m	主な修正点
浸水想定区域】 O. 5m以上3. 0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】 1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6. 0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7. 5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12. 9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う	主な修正点
浸水想定区域】 0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】 1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】 該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備	主な修正点
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備	主な修正点
浸水想定区域】O. 5m以上3. 0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6. 0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7. 5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12. 9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動場常時完備	主な修正点
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動者常時完備	主な修正点
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動者常時完備	主な修正点
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜7.5m 二次避難先 成島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動計常時完備 AED講習年2回実施(日本赤十字社または消防局)	主な修正点
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動計常時完備 AED講習年2回実施(日本赤十字社または消防局)	
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動1常時完備 AED講習年2回実施(日本赤十字社または消防局)	主な修正点
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動射常時完備 AED講習年2回実施(日本赤十字社または消防局)	
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動1常時完備 AED講習年2回実施(日本赤十字社または消防局)	
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館)海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館)海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動18常時完備 AED請習年2回実施(日本赤十字社または消防局)	
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先緑丘公民館(施設) 海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館)海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動常常時完備 AED請習年2回実施(日本赤十字社または消防局)	
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館)海抜6.0m 二次避難先 緑丘公民館(施設) 海抜7.5m 三次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館)海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓練年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動18常時完備 AED請習年2回実施(日本赤十字社または消防局)	
浸水想定区域】0.5m以上3.0m未満 津波浸水想定区域(浸水深)】1~2m未満 土砂災害(特別)警戒区域】該当なし 避難場所一次避難先 緑丘小学校(体育館) 海抜6.0m 二次避難先 広島大学附属福山中・高等学校(体育館) 海抜12.9m 避難方法児童の安全を最優先に、指導員が避難先まで誘導を行う 避難訓縛年2回実施 防災備品防災セットの常時完備 消火設備消火器完備 AED除細動影常時完備 AED請習 年2回実施(日本赤十字社または消防局)	
浸水想定区域	
浸水想定区域	